

# 二十四軒アレコレMAP



## 二十四軒に“メム”あり

かつて二十四軒には、メムと呼ばれる水の湧き出るところがあちこちにありました。メムとはアイヌ語で「水の湧き出るところ」という意味だそうです。そして、このメムは琴似発寒川からの伏流水（川の水が地中に染み込んで流れる地下水の一種）が湧き出たものです。

メムのひとつは“けもの道”と言われる道のすぐ近くにあり、子どもたちの遊び場でもありました。



大正の頃の二十四軒

## 縄文時代のおもかげ ~遺跡群と土偶~

二十四軒では多くの竪穴住居跡が発見されており、1995～96(平成7～8)年の調査でポリテクセンターの敷地内から発掘されたものがあります。



N30遺跡から出土した土偶

この遺跡は N30 遺跡と名付けられ、縄文時代後期から晩期にかけての竪穴住居跡のほか、大量の土器や石器、土偶、サメの歯が出土しています。

このほかにも二十四軒2条4丁目のN162遺跡、二十四軒3条1丁目の N426 遺跡などがあります。

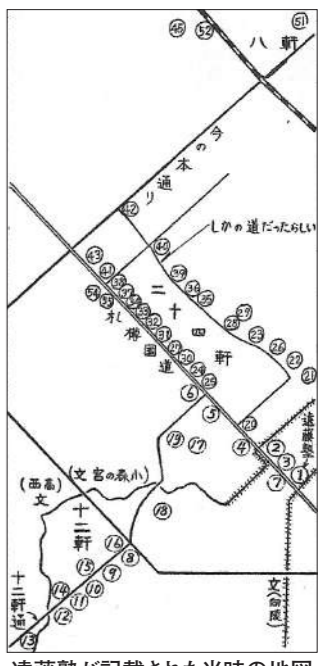
## 遠藤先生の学校

1872(明治5)年、国は、現在の小学校にあたる「教育所」を各地につくることを決めました。

このため琴似では、余市に入植した会津藩(今の福島県)出身の遠藤祐三郎を先生として迎えました。

遠藤祐三郎は二十四軒で小屋を借り、10人あまりの子どもに勉強を教えました。(右図中の①)

「遠藤先生」はまさしく、二十四軒の“教育の祖”と言えるでしょう。



遠藤塾が記載された当時の地図

## 二十四軒のおいたち

- 1869(明治2)年 開拓使を設置、蝦夷地を北海道と改称
- 1871(明治4)年 山鼻地域の東本願寺周辺に居住していた「辛末ノ村」の住民が八軒、十二軒(現在の中央区宮の森の一部)、二十四軒に移住
- 1875(明治8)年 最初の屯田兵198戸が琴似に移住
- 1882(明治15)年 北海道開拓使廃止 琴似簡易停車場開業
- 1922(大正11)年 札幌が市制施行により札幌市となる
- 1942(昭和17)年 琴似村が町制施行により琴似町となる
- 1955(昭和30)年 札幌市と合併する(3月1日)
- 1960(昭和35)年 陵北中学校が開校
- 1966(昭和41)年 二十四軒東連合町内会が発足
- 1968(昭和43)年 二十四軒小学校が開校
- 1972(昭和47)年 二十四軒連合町内会が発足
- 1974(昭和49)年 区制施行(4月1日)
- 1976(昭和51)年 西區役所、連絡所(現在のまちづくりセンター)開設
- 1974(昭和49)年 札幌冬季オリンピック開催 二十四軒公園が開園
- 1974(昭和49)年 二十四軒公園が完成
- 1999(平成11)年 地下鉄東西線開業(琴似~白石)
- 2001(平成13)年 旧国鉄電修場跡に、ポリテクセンター開設
- 2013(平成25)年 二十四軒交番が開設
- 2013(平成25)年 二十四軒手稲通の愛称が「ラベンダー通」に決定
- 2014(平成26)年 日赤血液センター移設開設
- 2015(平成27)年 二十四軒会館に「コミュニティサロン」開設
- 2018(平成30)年 北海道命名150年
- 2021(令和3)年 二十四軒移住150年